



## 「放課後等デイサービスと働き甲斐」

研究員（心理） 宮阪茜

私は、これまで、発達に遅れや偏りのある児童を対象に教育、医療業界で働いてきました。様々な経験を経て、福祉業界である放課後等デイサービスに就職したのは、ほんの1年前のことです。

放課後等デイサービスで働き始めた頃、新型コロナウイルスが爆発的に流行し始め、世界は未曾有の危機に立たされました。学校が休校になり、スマートキッズでも「コロナが落ち着くまでは利用を控えます」といった保護者の声があり、遠隔支援（meetや電話など）が増えました。この1年は、誰にとっても、怒涛の1年であったと思います。

さて、放課後等デイサービスに入職し、約1年が経った今、もう一度、「放課後等デイサービスとは何か」ということについて考えてみたいと思います。文部科学省のホームページには、次のように書かれています。（以下、抜粋）

『放課後等デイサービスとは、児童福祉法第6条の2の2第4項の規定に基づき、学校（幼稚園及び大学を除く。以下同じ。）に就学している障害児に、授業の終了後又は休業日に、生活能力の向上のために必要な訓練、社会との交流の促進その他の便宜を供与することとされている。また、放課後等デイサービスは、支援を必要とする障害のある子どもに対して、学校や家庭とは異なる時間、空間、人、体験等を通じて、個々の子どもの状況に応じた発達支援を行うことにより、子どもの最善の利益の保障と健全な育成を図るものである。』

文部科学省 2021年1月現在 放課後等デイサービス抜粋

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/tokubetu/material/1365225.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1365225.htm)

放課後等デイサービスには、様々な発達の遅れや偏りのある児童・生徒が通っています。例えば、発達障害や知的障害、ダウン症等のお子さんです。放課後等デイサービスには、いろいろな学校からお子さんが来室しています。小学1年生から高校3年生まで来室している施設もあります。具体的にどのような支援を行っているか、下図に示してみました。



図 1.放課後等デイサービスのスケジュール例

図1を見ていただくとわかりやすいと思いますが、平日は学校が終わる時間に合わせてお迎えに行きます。教室に到着したお子さんは、まず、手洗い・うがい・手の消毒、検温などをします。その後、学校の宿題に取り組んだり、個別療育に取り組んだりしています。個別療育というのは、個別支援計画に基づき、子どもが生活しやすくするためには、どうしたらよいか、個性や持ち味を生かしながら、もてる力を引き出し伸ばしていくためにはどうしたらよいかなどを考えて設定しています。例えば、手先が不器用なお子さんであれば、洗濯ばさみで好きな物を挟む練習をしたり、エジソン箸を使って食べ物に見立てた物をつまんでお箸の練習をしたり、きれいな紐を結ぶ練習をしたりするなど、その子が楽しいと感じる物を使い、生活に即した療育を行っています。手先の不器用さの大きな問題点は、そのこと自体の困難さの他に、心理的な負担感を生じさせることです。友達がなんなくやっていることが、苦痛になってしまいがちです。ですから、できるだけ楽しい素材で、楽しみながらできる課題を設定し、少しずつできるようになって欲しいと思っています。その際、指導員は、子どもたちの様子をよく見て、「こういう宿題はこの子に負担なくできるんだ」「指先の練習として次は〇〇をしようかな」と考えながら接しています。

さて、宿題や個別療育に取り組んだ後、余暇の時間をとります。この時間はお友だちと一緒に、ブロックやボール、折り紙など好きなものを選んで思う存分遊びを楽しみます。障害のあるお子さんの中には、友達とうまくかかわれない、集団行動が苦手というお子さんがいます。余暇の時間は、自分の選んだ楽しい遊びを通して、体験を通じて、社会性を身に付けていく大切な時間です。遊びの次はおやつの時間です。一人一人のアレルギーや偏食等を考慮しながら、安心して食べられるもの、子どもが喜ぶものを提供するようにしています。そして、集団療育は、月ごとにテーマを決め、活動の幅を広げたり、体づくりをしたりしています。例えば粗大運動としてリズム体操を行ったり、SSTとして身だしなみのチェックなどを楽しみながら行ったりしています。

子どもが帰る時間になると、徹底した安全管理や安全指導をしながらお家まで送り届けます。また、送り届けられた際には、保護者の方に「今日は〇〇がよくできていました」「たのしそうに〇〇していました」と、教室での様子を伝えることも忘れません。こうして、放課後等デイサービスの一日は過ぎます。上の図には書ききれないほど、多くの細かいケアがあり、目まぐるしく時は過ぎていきます。このような毎日の中で、子どもたちの笑顔にであったり、成長する姿をみたりすることは、とても大きな喜びです。「放課後等デイサービスとは何か」それは「みんなが一生懸命な場所」と考えます。

教室では、様々な個性、特性を私は、様々な個性、特性を持った児童が、それぞれの個性、特性を発揮しながら楽しく過ごせる場だと感じています。課題がうまくできなかつたり、お友だちと喧嘩をしたりして、楽しいだけではないかもしれません。しかし、そこに寄り添い、支えてくれるスタッフがいます。しかも様々な大人が、どうしたら良いのかを考えて協力しています。遠隔支援をするにしても、一所懸命です。子どもも、保護者も、支援者も、教育者も、その他、大勢の人々も、だれもが皆、一所懸命です。このことを忘れずに、私は今日も奮闘しています。

スマートキッズ株式会社 宮阪茜

2014年 大学院修士課程卒業

発達に遅れや偏りのある児童・生徒を対象とした学習塾に入社。学習指導、SST（屋内外）、知能検査等を行う。

2015年 公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会 臨床心理士資格取得

学習塾と平行し、児童精神科に入職。カウンセラーとして小学生～成人の方への知能検査、カウンセリングを行う。

2019年 児童精神科を退職し、学習塾と平行しながら通信制高校に入職。学習支援、グループSSTを行う。

2019年 一般財団法人日本心理研修センター 公認心理師取得

2020年 学習塾、通信制高校を退職し、スマートキッズ株式会社に入社。新米児童指導員として日々奮闘中。